

## 第2回 リベラルアーツ教育研究会 議事録

日時：平成21年10月27日（火）16:40-18:30

場所：湘北短期大学 1号館 128教室

参加者（敬称略、順不同）：中條 安芸子（文教大学）、青山 晃（平塚湘風高）、柏木 真人（高浜高）、佐藤 明宏（藤沢高）、佐野 英樹（瀬谷高）、住谷 勉（湘南台高）、高原 隆（瀬谷高）、野島 正幸（麻布大附淵野辺高）、森 久美子（厚木清南高）

米澤学長、佐藤教務部長、山本学長室室長、岩崎 LA センター長、野口、小泉、山崎、藤澤、高橋、小棹（以上 湘北短大10名）

配布資料：

- ① [レジュメ：フィンランドの教育](#)
- ② [添付資料1：フィンランドと諸外国における中高等教育の学校系統図](#)
- ③ [添付資料2：SALPAUS 職業専門学校のご案内抜粋](#)
- ④ [添付資料3：全国統一資格検定試験（The Finnish Matriculation Examination）リーフ](#)
- ⑤ 添付資料4：Kannaksen 高校の学習要綱抜粋
- ⑥ 文教大学高大連携活動紹介 新聞記事抜粋
- ⑦ 「現代型社会人育成を俯瞰する入学前教育構築」（教育 GP リーフ）
- ⑧ 湘北紀要 別刷り

話題： A. フィンランドの教育（視察研修報告）  
B. 文教大学（湘南キャンパス）における高大連携活動紹介

記録：

1. 開会挨拶・出席者自己紹介  
湘北短期大学リベラルアーツセンター 岩崎センター長より開会の挨拶があった。出席者の自己紹介を行った。
2. 「フィンランドの教育」と題してレジュメ（配布資料①）に従い、平成20年2月6日～8日に実施された視察研修報告が小棹よりなされた。内容は下記のとおり。

- ・フィンランド共和国について
- ・同国の経済的・歴史的背景
- ・教育システムの特徴：諸外国の中高等教育の学校系統比較（配布資料②、③）
- ・高校の成績・評価：全国統一資格検定試験（配布資料④）

フィンランドは OECD 実施の PISA（Programme for International Student Assessment：生徒の学習到達度）調査で 2000 年以来、常に一位を獲得し、世界一の教育国として知られる。PISA で測られるのは、義務教育の修了段階にある 15 歳の生徒の読解力、数学的リテラシー、科学的リテラシー、問題解決力である。

フィンランドの教育システムが日本のそれと異なる点は下記のとおり：(1)無償の教育を憲法で保証、(2)小中一貫教育(9年で補習プログラム（第10学年）が設けられている）、(3)後期中等教育までは無試験、(4)教員は修士課程修了者で優遇されている。

大学入学のための全国統一試験（Matriculation test）はすべて記述式で共通必修が母国語、他に3科目必修で数学、第二外国語（英語またはスウェーデン語）、その他（物理・化学・人文科学など）から選択することになっており、PISA の測定項目と整合している。

Q&A：

Q:補習受講者は3%ということだが、特別支援者ではないのか

A:基礎学校での学力を保証するためのもので、一般生徒と理解している。

Q:フィンランドの教育の問題点はないのか

A:二点ある。ひとつ目は、基礎学校までの教育は、落ちこぼれをなくす教育であって、下位層を底上げすることで全体としての平均点を上げている。従って、上位で突出する人材が出にくい教育なのではないか、ということである。ふたつ目は、国家予算の 2 割もかけて下位層に対し手厚い教育をめざすかどうか、である。国によって考え方が違ってくるところだと思う。

Q:いじめの問題は

A:確かに心の問題はどこ国でも頭を悩ませている。実際訪問した **Kannaksen** 高校の校長も、高校生による銃の乱射事件があったことなどが問題であることを指摘していた。コミュニケーション力の低い生徒が孤立しないよう、対策としてカウンセラーを 2 人おいてチューター制を導入したとのことである。

### 3. 文教大学（湘南キャンパス）における高大連携活動紹介

中條 安芸子先生（文教大学 高大連携運営委員会委員長）より各種活動の紹介があった。

①教育連携校は 24 校（平塚聾学校も含む）。大学教育への円滑な導入を図ること、高校関係者と大学関係者の相互理解の促進、が連携の目的である。

②連携プログラムとして大学体験プログラム、出張授業、科目等履修生の受け入れ、などを行っているが、各高校の要望に応じてカスタマイズしている。

### Q&A

Q:出張授業は入試担当、科目等履修は教務課担当、とのことだが、高大連携運営委員会でとりまとめを行っているわけではないのか。

A:行っていない。多面的なチャンネルをもって活動している。教員間交流に注力しており、高大共通のテーマで研究会を月に 1 回開催している。

Q:高大連携運営委員会はどういう組織か？任命は誰が？

A:学部選出の教員 4 人、事務局 7 人である。事務局側の委員会メンバーは事務局長が任命する。

Q:中條先生が長く推進してこられてたいへんな努力だと思う

A:人脈を大切にしてきた結果と思う。

### 4. 閉会挨拶

岩崎センター長より閉会のあいさつがあった。

次回開催予定：12 月 12 日（土）拡大研究会

以上